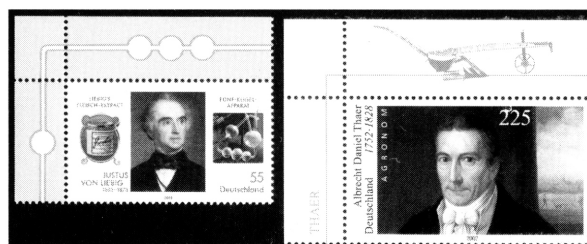


## 肥料と切手よもやま話(番外)

越 野 正 義



## リービヒの再評価

肥料と切手のよもやま話で、リービヒとテアの切手を紹介した(平成14年10月号)。その後2002年にテア生誕250年、2003年にリービヒ生誕200年の記念切手がドイツで発行された。

新しいテアの切手は農学の父としてのものであるが、リービヒの切手には肥料との関係はまったくなくなり、分析化学で用いられる五連球と牛肉エキスのデザインとなっている。五連球(カリ球)は有機物を燃焼して発生する二酸化炭素を吸収させ重量を計り元素分析をする道具であり、これを使って多くの有機化合物の組成が決められた。ノーベル化学賞を受賞した初期の化学者の過半数はリービヒの実験室に関係があるといわれている。

肉エキスの研究も有名であり、保健強壯用

サプリメント飲料はリービヒが元祖である。

肥料におけるリービヒの貢献については実はドイツで見直されている。これまで彼の貢献とされていた無機栄養説、最小律はともに彼よりも先にカール・シュプレングエルが1828年に発表しており、リービヒはこれらの発見または最初の唱道者ではなく、宣伝・普及した人だったのである。ただシュプレングエルの説は当時必ずしも理解されなかったが、リービヒの説得力、論敵を打ち破る意思の強さがこれらの説を世に受け入れさせるのに貢献したのである。

新しい切手のデザインもその意味と理解できるが、リービヒの無機栄養説、最小律と習ってきたものとしては少しさびしい感じもする。

前(財)日本肥糧検定協会 参与